


ICT 学習支援教材コンテンツ活用実践事例

		学校名	青森県立八戸第一養護	学校
授業について	教科領域名 (✓又は■で記入する。)	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数・数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 外国語・外国語活動 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作・美術 <input type="checkbox"/> 体育・保健体育 <input type="checkbox"/> 技術・家庭 / 職業・家庭 / 職業 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 総合的な学習(探究)の時間 <input type="checkbox"/> 日常生活の指導 <input type="checkbox"/> 生活単元学習 <input type="checkbox"/> 作業学習 <input type="checkbox"/> 遊びの指導 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> その他 ()		
	単元(題材)名	徒然草 第52段 仁和寺にある法師		
	単元(題材)の目標	「仁和寺にある法師」を読み、兼好法師のものの見方や考え方を自分の知識や経験と結び付け理解する。それを基に続きの話を作成し、読み手からの意見をふまえ、自分の考えを広げたり深めたりする。		
学習集団と実態	学部・学年・人数	中学	部	2 年 1 人
	本単元(題材)における学習集団の主な実態	※個別学習の場合は、個人の本単元(題材)における主な実態を端的に記入する。 在籍1名の学級であり、同年代の生徒との対話的な学びを通して自分の考えを広げたり、深めたりすることが困難である。教師が生徒役を兼ねて様々な考えを提示しようとするが、生徒は「教師の正しい答え」と捉えてしまうことが多い。		
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称	※使用したICT機器(入出力支援装置等)名を記入する。 i p a d		
	使用したアプリケーションの名称	※使用したアプリケーション名を記入する。 Z o o m		アプリマーク 
	主な活用の用途 (✓又は■で記入する。)	(複数選択可能) <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション支援 <input type="checkbox"/> 活動支援 (<input type="checkbox"/> 情報入手支援 <input type="checkbox"/> 機器操作支援 <input type="checkbox"/> 時間支援) <input checked="" type="checkbox"/> 学習支援 (<input checked="" type="checkbox"/> 教科学習支援 <input type="checkbox"/> 認知発達支援 <input type="checkbox"/> 社会生活支援)		
	ICT活用のねらい	遠隔会議システム(Zoom)を活用した遠隔授業を定期的に行うことで、地域にいながらにして同年代の生徒と交流をもち、自分の考えを広げたり、深めたりする。		
活用の状況と支援	※ICT活用場面と行った支援について記入する。 東京都の筑波大学附属桐が丘特別支援学校中学部の生徒5名と遠隔会議システム(Zoom)を活用し、計5回、各単元の中で1回ずつ授業交流を実施した。本単元では、3名ずつのグループに分かれ、各生徒が作った「仁和寺の法師の『続きの話』」に対する質疑応答を行った。本生徒、交流校の生徒がそれぞれ気づかなかった部分を互いに教え合うことで活発なやりとりの時間となった。違う立場からの読み方や考え、表現の仕方等に気づくことで自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。授業では、本校教師も別のグループ(桐が丘の生徒)の指導に入ることから、グループでの話し合いの時に本生徒の支援を行うことは難しい。そのため、本生徒が自分で見通しをもって参加できるように、相手校との接続の仕方や画面操作、トラブル時の対処法などを事前に練習し、教師の支援を受けずに授業に参加できるようにした。			